

レテモ致方ガナイデアラウ

又此植物研究所ガ愈ヨ大阪ニ實現セラル、曉ニハ大阪方面ノ教育上ニハ實ニ非常ナル便益ヲ與フルコト少シモ疑フ餘地ガナイ、例ヘバ目下各小學校ナドニテハ植物ノ名稱ナド分ラヌ爲メ各教員ハ平常大ナル不便ヲ感ジツツアルト聞ク又大阪ニテハ之レヲ聽ク學者ナキ爲メ尙更ニ困却シ居ルトモ聞ク從テ教員ガ實地教授ニ學生ヲ野外ニ連レ行ク等ノコトハ少シモ實行セラレズニアル狀態デアアル、若シ幸ニ此研究所ガ出來レバ此等ノ缺陷ハ直チニ醫スル事ヲ得ベク茲ニ現狀ヲ一新スルコトハ實ニ容易ナコト、信ズル

此ノ如キ、國家トシテ又人生ニ對スルトシテ、極メテ有用(實際的ノ)ナル機關ノ出現ハ大阪市ノかんばんトシテ同市ヲ飾ルモノ、一ニ算ヘテモ敢テ不可ナキコト、信ズル、又大阪ガ他ニ率先シテ此有用ナル機關ヲ設クルコトハ大阪市トシテ他ノ都市ニ誇ルニ足ルモノデアルト思フ

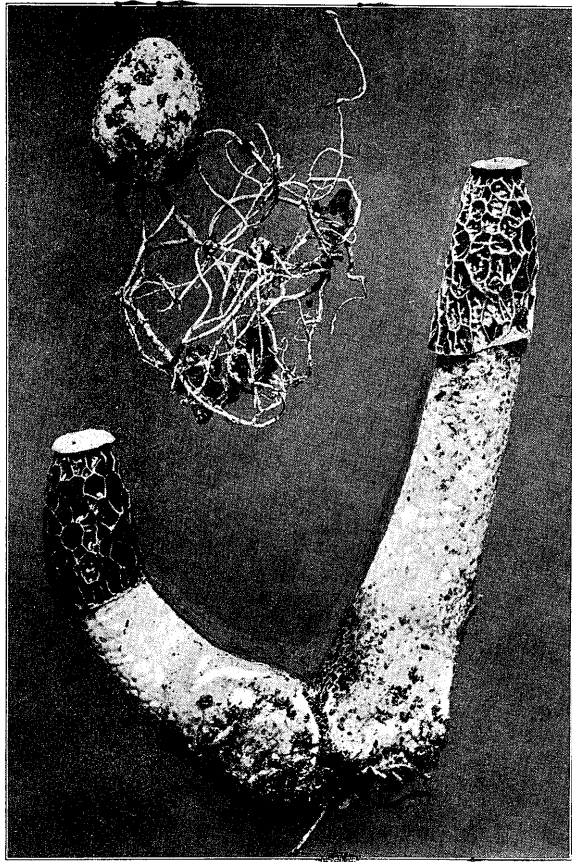
又餘リ廣大ナルモノニハ及バヌガ此研究所ノ附屬トシテ一ノ植物園ヲ有シタイ、是レハ無論植物ノ研究上ノ必要モアルガ又何時ニテモ生キタ見本ヲ見ル事ガ出來ル様ニ用意シテ置クコトハ實際極メテ必要ナコトデアアル

○蕾 軒 獨 語 (其十六)

蕾 軒 朝 比 奈 泰 彦

○きいろすつぼんたけ (新稱)

本邦ニ産スルすつぼんたけ屬 (Thyphallus) ノ葎ハすつぼんたけ (T. impudicus Fr.) ちつねのえふで (T. fungulosus Fisch.) へびのあんどう (T. aurantiacus E. Fisch.) ノ三ツデアアル、然ルニ大正十四年七月七日富士大宮口二合目ノ林地ニ於テ全形全クすつぼんたけニ一致シテ居ルガ帽ノ色が黄色デアアルノガ異ナレル一種ヲ得タノデ取り敢ヘズ之ニきいろすつぼんたけト云フ名ヲ附ケテ置タ、所ガ昭和二年六月四日武州西多摩郡日原ニ



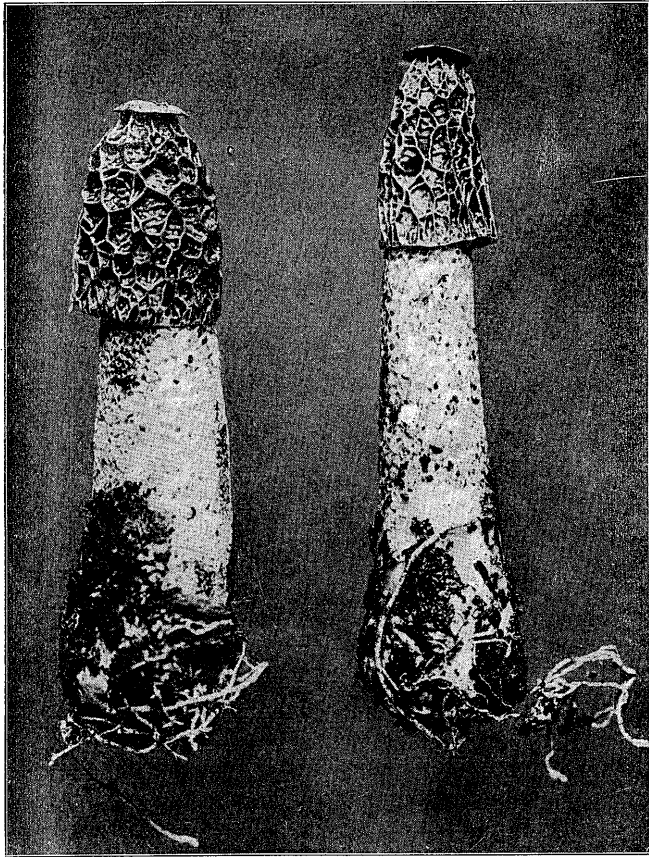
(其一) きいろすっぽんたけ (新種) (*Ithyphallus costatus* PENZ.)

布シテ居リ實ニ不快ナル惡臭ヲ發スル、其ノ一滴ヲ取リ鏡檢スルト無數ノ長橢圓形ノ孢子ヲ認ムルコトガデキ
 ル其大サハ約 $30 \times 15 \times 10$ デアル、柄ノ先端ハ稍廣ク扁平トナリ中央ハ穿孔サレテ居リ柄ノ中空ト通ジ柄ノ實體
 ハ多數ノ氣胞ガアリ「スアメ」ノヤウナ構造デアルコトすっぽんたけニ同ジ、帽ノ黄色素ハ「フォルマリン」水
 中ニ溶出シ後ニハ全く白色トナリすっぽんたけノ「フォルマリン」漬ト區別ガデキヌヨウニナルノデアアルカラ

採集シタ際同行ノ石館藥學士
 ガ復タ此ノ葷ヲ見付ケタカラ
 其寫眞ヲ取リ左ノ通り簡單ナ
 記載ヲ試ミテ置イタ
 此葷ノ菌絲體ハ白色デ朽木又
 ハ腐朽セル落葉ノ間ヲ分岐錯
 綜シ子實體ハ始メハ小形ノ球
 體トシテ出現シ漸々生長シテ
 卵形トナリ終ニ徑三—四「セ、
 メ」ニ達スルニ及ビ破綻シテ
 帽及ビ柄ヲ突出スル、柄ハ白
 色デアアルガ帽ハ網狀ノ褶ヲ有
 スルコトすっぽんたけト違ハ
 ナイガ黄色ヲ呈シテ居ル、其
 表面ニ暗褐色ノ稀薄粘液ヲ塗

南米ペリユノ古柯

○南米ペリユノ古柯



林學博士

(其二) きいろすっぽんたけ (新稱) (*Ithyphallus costatus* PENZ.)

採集ニ際シヨク生時ノ色澤ヲ的確ニ觀察記入シタ箋デモ添付シタ標本デナイト後日之ヲ鑑定スルニ當リ混亂ヲ引起シ易イ、尤モコレハコノ蕈ニ限ツタ譯デナク保存中脱色スル場合ノ極メテ多イ蕈類ニ於テハ當然ノコトデアル

其ノ後川村君ハ此ノ蕈ヲ精査シ *Ithyphallus costatus* デアルト知ラセラ來タ夫レデ本屬中更ニ一種確實ニ日本ノ「フロラ」ニ加ヘラレタコトニナツタガ各地ノ標本ヲ調べタラ恐ラク其產地ハ更ニ擴大シ諸州ノ山地ニモ産スルコトガ知レルダロウ

金 平 亮 三